

## サンプルケース：体験型eラーニング～失敗しながら学ぶプロジェクトマネジメント～

### ◆コース情報◆

コース名：体験型eラーニング ～失敗しながら学ぶプロジェクトマネジメント～

開発：株式会社 富士通ラーニングメディア <http://www2.knowledgewing.com/>

本コース概要については下記URL参照

<https://www.knowledgewing.com/icm/srv/course-application/init-detail?cd=FLM&pcd=FLMC&cscd=UEL07B>

### ◆ストーリー◆

システム開発会社であるE社では中規模(50人月程度)以上のプロジェクトのマネジメントができる中堅社員を増やすことが経営上の重要な課題であった。

そこで、小規模(10人月程度)なプロジェクトであれば担当できる社員のスキルアップのために、市販(汎用)eラーニングコンテンツである「体験型eラーニング ～失敗しながら学ぶプロジェクトマネジメント～」を導入することを検討することとなり、このコンテンツを試用した。

被験者(受講者)はこのeラーニングの対象者である小規模なプロジェクトを担当しているが中規模以上は担当したことが無い社員と、中規模以上のプロジェクトのマネジメントを既に担当している社員を数名ずつとした。

学習直後に感想などを調査したところ全般に好評で、「設問が多く、すぐに顧客の反応や社内外で発生したトラブル・問題といったものが出てくるので、かなり真剣に、かつ楽しく学習できた」というコメントが多かった。

その中でも、中規模プロジェクトの経験が無い受講者からは、「中規模のプロジェクトマネジメントがどのようなものか分かった気がする」「色々な落とし穴を事前に知ることができたのは大きい」「プロマネとしてのちょっとした判断ミスが後々大きなダメージに繋がることが分かり、スキルアップの必要性を感じた」といった肯定的なコメントが多かった。ただし、一部からは「自分がプロマネとして経験してきたこととの隔たりを大きく感じた」「それぞれのフェーズでやるべきことをよく理解できていないため、不安なまま学習を進めることになった」といったコメントもあった。

また、実際に中規模プロジェクトを担当している受講者からも「ありがちな話題や落とし穴が多く、状況設定にリアリティを感じた。」「自分自身のプロジェクトマネジメントを見直す良い機会になった」といった肯定的なコメントが多かったが、一方で「このストーリーの背後にある定型化されたプロジェクトマネジメントプロセスは、当社内のプロセスとほぼ一緒だが、微妙な違いがありそうに感じた」といったコメントもあった。

その後、追跡調査として、受講後数ヶ月の間に初めて中規模プロジェクトをプロマネとして担当した被験者にインタビューを実施してみた。

受講直後に初めて中規模プロジェクトを担当した被験者からは、「クライアントの打ち合わせのイメージがある程度できていて、注意点も分かっていたので、割と落ち着いて対応できた。」「リスク回避に繋がった」といった肯定的なコメントが中心だった。

一方、受講してから3ヶ月以上経ってから初めて中規模プロジェクトを担当した被験者からは、「eラーニングで学習したときには、どんな手順で何に気をつければよいか理解していたはずなのに、実際にプロマネになってみると、学んだ以外の様々なことが起こりパニックになってしまった」「このプロジェクトフェーズで何か注意点があったはず、ということまでは思い出せたが、何をどのようにすればよいか思い出せなかった。何か手元に残るものがあれば・・・。」といったように「十分には役立たなかった」といったコメントが多く帰ってきた。

E社では、これらのアンケート結果を受け、本格的な中規模プロマネの育成に向けて、eラーニングコンテンツの改訂、新規開発をFLM社に依頼することとなり、社内のラーニングデザイナーであるあなたが、どのような教育プログラムにし、eラーニングをどのように活用していくか、どのようなコンテンツにするか、の原案を検討し社内で提案することになった。経営陣からの要求は以下のRFPの通りだった。

◆ R F P ◆

今回の提案での要求および条件等は以下の通りである。

- ① 小規模(10人月程度)なプロジェクトであれば担当できる社員が中規模プロジェクトのマネジメントをできるようになる教育を施して欲しい。
- ② 現在の「体験型eラーニング ～失敗しながら学ぶプロジェクトマネジメント～」は少なくとも学習直後には好評である上、中規模プロジェクトを初めて担当した被験者のある程度の人数からは「役に立った」というフィードバックが返ってきているため、この種のeラーニングを活用する方向で考えてもらいたい。但し、新しいeラーニングコンテンツ開発も検討して構わない。
- ③ 現在の「体験型eラーニング ～失敗しながら学ぶプロジェクトマネジメント～」の改訂やカスタマイズ、新たなコンテンツ開発のいずれでも構わない。経営上の重要課題でもあり、予算面はとりあえず考慮に入れなくてもよいが、できるだけコスト・パフォーマンスの良い方法を提案して欲しい。
- ④ 「eラーニングで学習したときには、どんな手順で何に気をつければよいか理解していたはずなのに、実際にプロマネになってみると、学んだ以外の様々なことが起こりパニックになってしまった」「このプロジェクトフェーズで何か注意点があったはず、ということまでは思い出せたが、何をどのようにすればよいか思い出せなかった。何か手元に残るものがあれば・・・。」といった声に対応できるようにし、中規模プロジェクトに安心して、かつ自信をもって対応できるようにして欲しい。
- ⑤ 当社のプロジェクトの進め方に合わせたものにして欲しい。
- ⑥ 当社におけるプロジェクトをイメージできるように、実写映像(プロジェクトに成功した社員へのインタビューなど)も用い、当社のプロジェクト事例を盛り込んで欲しい。